



昭和21年9月、本通俱樂部前で青年団本通分団の記念写真

相談のための集会所がほしい

入植以後、村の運営は開拓使・北海道庁の指揮下に置かれた戸長・村長が行っていたが、解決しなければならない問題が山のようにあり、部落（昔は地域の集落を部落と呼んでいた）細かな問題まで手が回るわけではなかった。部落の人たちが相談し合い、協力し合って生活が成り立っていたのである。

相談ごとは部落長宅に集まって行るのが普通だったが、家の人への遠慮もあり、気兼ねせずにいつでも集まれる集会所がほしいというのが共通の願いだった。

青年団が各地にできる

明治23年、白石学校（白石小学校の前身）に「徳義を厚くし、知識を交換する」ことを目的に白石青年会が設立

され、各地で文化、農業技術などの技術や意見交換が活発に行われた。大正5年4月3日には白石村青年団が役場内に村長を団長として設立され、各地の青年会は統合された。

さらに本通、南郷、北郷など幾つかの分団に分けられ、分団はおののちに俱樂部を建て、活動の拠点とした。青年団には尋常小学校卒業とともに入団することができ、年限は35歳までだった。

地域の集会に不可欠な俱樂部

本通俱樂部は大正期（年は不明）に木造で新築された。当時の青年団の活動は白石神社の祭典の全般の取り仕切りと青年団の競技大会への参加が主だった。

南郷俱樂部は昭和3年11月に南郷分団の活動場所として、団員のアルバイトなどで貯めた100円を基金に部落民の寄付を加え、大工に木材の切り込みを依頼した以外は自分たちで建築した手作りの会館である。青年団だけでなく、農事実行組合、婦人会、自治会、さらに娯楽や演芸などにも使われ、昭和41年3月に閉鎖した。

横町地区では分団とは別の横町特別青年会があり、横町親睦会からの寄付300円とお祭の余興残金などを基金に、

地域 の意思決定は俱樂部で 今も残るレンガ積み「本通俱樂部」



本通俱樂部の前身となった農友会俱樂部の建物（大正5年）





昭和 18 年の横町倶楽部

昭和11年、古電柱を梁^{はり}を使って東札幌2条4丁目に横町倶楽部を建てた。当初は白石本村への遠慮から横町特別青年会館と呼んでいたが、数年後に横町倶楽部と改称した。

ここでも農事組合、白石神社打ち合わせ、婦人会などの会合に利用され、以来昭和46年の南郷通拡張で解体するまで地区住民のコミュニティセンターの役割を果たした。

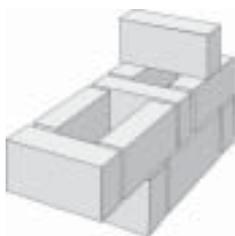
本通倶楽部をレンガ造りで再建

昭和に入り本通倶楽部の建物は老朽化が進み、建て替えの話が出た。

当時の本通部落は、現在の国道12号の本通3丁目から17丁目間の両側に50戸の農家があった程度なので建築費を集めるのに困っていた。

この話を聞いた同部落に住む鈴木武良氏(15代目村長=昭和7年9月15日就任・昭和7年11月11日退職・元札幌農学校教官)が1,000円の寄付をした。あまりにも多額なので返還しようという話も出たが、厚意を生かし、長く使えるレンガで建てることになった。

野幌のレンガ工場(布川煉瓦)と相談した結果、後の昭和30年前後に野幌地



コバ立て空間積みは壁の中間に空気の層ができ、防音と断熱に効果のある積み方

域で流行したコバ立て空間積みで組むことになった。空間によって防音効果と保温効果のある工法で、レンガ工場のモデル建築物として昭和3年に完成させた。



昭和 21 年 4 月、南郷倶楽部の前に植樹をしたときの記念写真

間口5間、奥行10間の50坪平屋建てで、正面に舞台を設け、床はコンクリート仕上げ、窓は上げ下げ式、玄関は両開きのドアを取り付けたりっぱなものだった。

農繁期は季節保育所として

住民活動の拠点となった本通倶楽部に新たな要望として、保育所の機能が求められた。

戦後の白石はまだ農業が盛んだったので、昭和28年に奥山武雄氏が所長となって農繁期に幼児を預かる季節保育所を開設した。当初は農家の主婦が数人交代で面倒をみていたが、主婦が家業を休むことは農家にとって大きな負担だったので、昭和33年に専任の保母2人を配置して暁保育所を開設し、3~5歳65人が入所した。

保育期間は4月から10月までで、時間は一応9時から8時までだったが、保母が朝7時半に出勤したら、もう何人か

の子供を置いて出かけている人もいた。

昭和30年に東札幌1条5丁目に造成された市営住宅の入居者で結成された緑栄会も、保育園を開設している。生活のために共働きしたくても公立の保育所が少なく、なかなか入所できなかったために、昭和33年に私立みどり保育園を開設した。

当初は会員が中心だったが、近接の美園・東札幌地区住民の入所要望があり、昭和46年に私立北の星保育園が開設されるまで60人から80人の園児を保育した。

本通倶楽部の所有者である柳本氏も倶楽部の保育所で育った一人である。摂取したアメリカ軍が残っていた粉ミルクの味が忘れられないという。

現在残っている倶楽部の建物は本通倶楽部だけだが、住民自治の拠点であったことだけはいつまでも語り継ぎたいものである。(岩淵清幸・富岡秀義)



昭和 30 年頃の航空写真で見た本通倶楽部(印)。中央の道路は国道 12 号